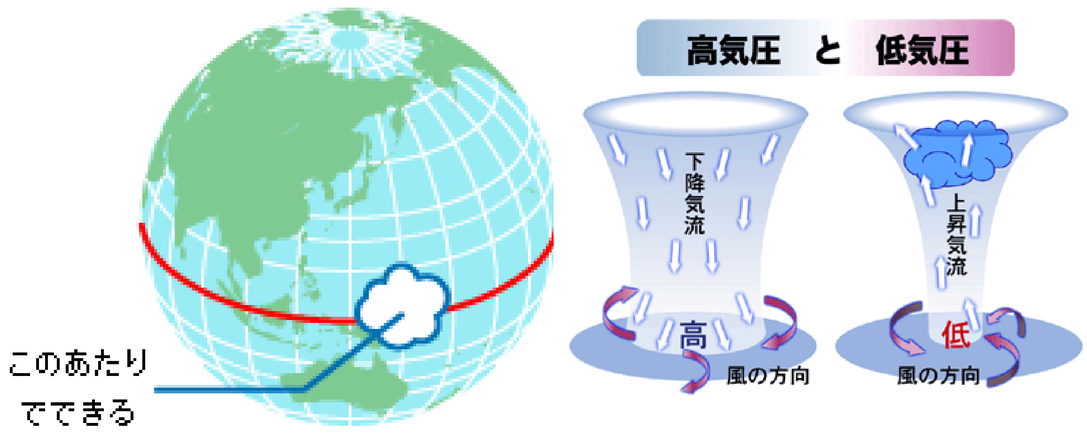
台風について

- 台風とは、北西太平洋で発達した低気圧で、最大風速が約17.2m/s以上のもの。
- 台風のエネルギー源は、高温の海面から蒸発する水蒸気がもつエネルギー。
- 台風は、ほぼ年中発生するが、日本には夏から秋に接近・上陸しやすい。

■台風とは？

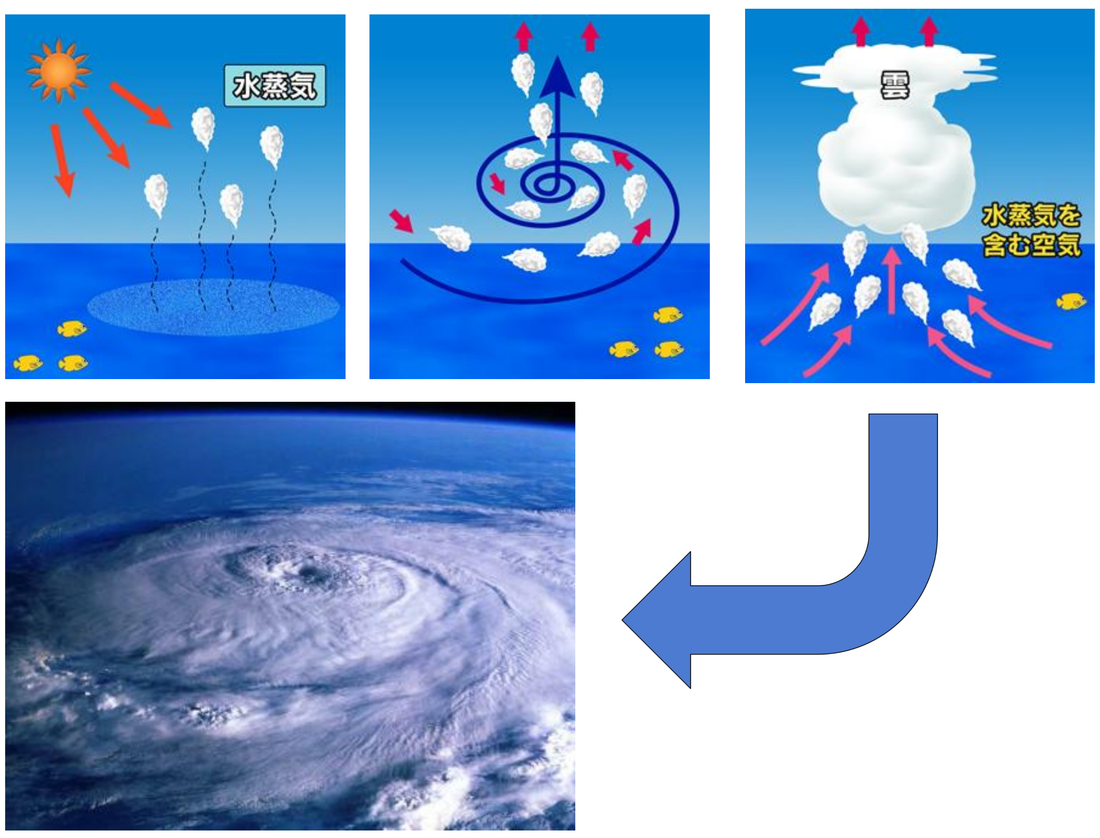
- **台風とは、北西太平洋あたりで発達した低気圧で、最大風速が秒速約17.2メートル以上のもの。**
- 台風は、低気圧なので、北半球（南半球）では、上から見て反時計回り（時計まわり）に回転。
- 北太平洋東部や北大西洋で発生したものはハリケーン、インド洋や南太平洋西部に発生したものはサイクロンと呼ばれる（ただし、ハリケーンとサイクロンは、秒速約32.7メートル以上のもの）。



台風の発生する場所、高気圧と低気圧

■台風はどこでどのようにできるか？

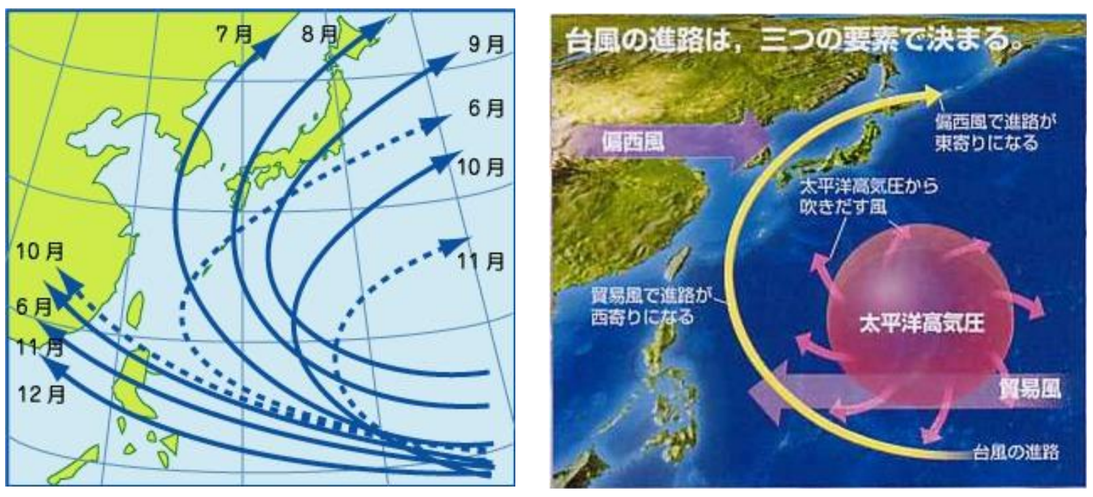
- **台風のエネルギー源は、高温の海面から蒸発する水蒸気がもつエネルギー。**
- 熱帯の海上で、強い日光により、多くの水蒸気を含んだ空気が、温められて、上昇する。
- 上昇気流ができると、まわりから空気が流れ込み、渦が発生する。
- 上昇に伴って、温度が下がり、水蒸気が水滴に変わり、そのときに潜熱というエネルギーを放出し、上昇気流はさらに強まる。
- この過程が繰り返されていくうちに、小さな渦は大きな渦にまで発達し、台風になる。
- そのため、台風は、水がたくさん蒸発することのできる高温の海域、具体的には、海面水温が27°C以上の海域で発達する。



台風の発生する仕組み

■台風はどういうコースを通るか？

- **台風は、ほぼ年中発生するが、日本には夏から秋にかけて接近・上陸しやすい。**
- 台風の進路は、貿易風（低緯度で東から西に吹く風）と偏西風（中緯度で西から東に吹く風）とその間にある太平洋高気圧のバランスで決まる。
- 低緯度で発生した台風は、貿易風により、西に進みながら、太平洋高気圧の縁に沿うように進行方向を変えて北上し、中緯度に達すると、偏西風により、東に進むようになる。
- しかし、春や冬には、太平洋高気圧の勢力が弱かったり、偏西風が高緯度にあったりすることがあるため、台風は日本の方に向かわず、東南アジアや中国の方に向かうことが多くなる。



日本付近の台風の経路とそれを決める要素

参考・出展：気象庁・日本気象協会